https://rodosoken.com/

大江洸前代表理事のご逝去を悼む

大須　眞治

労働総研前代表理事の大江洸さん（代表理事在任期間1994年度～2005年度）が去る４月17日に頬粘膜がんのため、京都市内の病院でお亡くなりになりました。1929年、京都のご出生ですので、享年78歳でした。謹んで哀悼の意を表すものです。

大江さんは全労連議長、自治労連中央執行委員長、京都自治労連執行委員長、京都総評議長、府職労執行委員長などを歴任され、1994年度に労働総研代表理事になられ、2005年に退任された直後、癌を再発され入院治療されることとなりました。

われわれが京都の病院にお見舞いした時には、「秋には飲もう」と言われ、元気なお姿でいられましたが、さすがの大江さんもついに病には勝てず、帰らぬ人となってしまいました。

代表理事になられた時には、多くの重責を経てこられた老練な労働運動活動家ということをまったく感じさせない静かな話ぶり、ゆったりとした態度で、会議などに臨んでおられました。時には会議の最中には、眠られているのではないかと思われるほどで、静かにみんなの意見を聴いておられましたが、ひとたび発言をされると、その内容は討論参加者の心情を十分に考慮に入れ、会議として決断すべき方向を示す、重厚で深みのあるものになっておりました。決して寝ているわけではないのだな、ということを実感しました。労働総研で労働運動と研究を結びつける役割として大江代表の占める位置は大変大きなものがありました。

2002年の11月から大江代表を中心に藤吉事務局次長が案内役となり、それに私が随行するという形で、加盟単産訪問を行いました。訪問先は、自治労連、日本医労連、自交総連、国公労連、全教、生協労連、建交労、東京地評、年金者組合、福祉保育労、JMIU、郵産労、通信労組などでした。これについて大江代表は、大変感激されたようで、組合それぞれの活動状況や悩みなどを具体的に聞くことができ、こういうことは大変貴重であるとなんども言われながら、汗をかきながら訪問を続けられました。

単産訪問をしながら、江戸の下町の様子についても大きな関心を寄せられ、江戸には肝心な所に神社やお寺がある、と言われて、江戸の町の構造について改めて感動された様子でした。単産訪問は大江代表を２重に感激させたようでした。さらに単産訪問を終えて、一杯やる時「そうだったのか」と何度もうなずき、深い満足で単産訪問をしめくくっておられました。

その時の様子が今でも目に浮かぶようです。その大江代表も今ではこの世の人ではなくなってしまいました。改めて悲しみを深めざるを得ません。

（おおす　しんじ・事務局長・中央大学教授）